

Functional Independence Measure 評価の正確性向上に向けた取り組み

高草木 ゆみ¹⁾ 樽見 桂子¹⁾ 町田 恵理子¹⁾ 石森 卓矢²⁾ 児玉 悦志²⁾

腰塚 洋介²⁾ 富田 庸介³⁾ 美原 盤⁴⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

3) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション科

4) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経内科

[はじめに] FIM はリハビリテーション(リハ)における臨床的評価指標としてのみならず看護必要度に代わって診療報酬でも活用され、看護師(Ns)でも正確に FIM 評価を実施できることが求められる。当院における FIM 評価の正確性向上への取り組みについて報告する。

[取り組み] 令和 2 年 6 月より、Ns が入退院時などに評価した FIM を作業療法士(OT)が確認し、その都度すり合わせすることを開始した。FIM の概要と各項目の評価方法について勉強会動画を作成、9 月と 12 月に Ns と OT に視聴させた。

[方法] 取り組みの効果判定として、6 月と翌年 3 月に事例患者を用いた 18 点満点のテストを実施した。テストの解答は公表せず同一内容のものを用いた。回復期リハ病棟に勤務している Ns51 人、OT15 人を対象とし、6 月と 3 月のテスト結果について比較した。また、それぞれのテスト結果について職種間で比較した。

[結果] Ns は、6 月は 7.4 ± 3.6 点、3 月には 8.3 ± 3.4 点と向上傾向を認めた ($p < 0.1$)。OT は、6 月は 12.1 ± 2.9 点、3 月は 14.1 ± 2.9 点と有意に向上を認めた ($p < 0.05$)。Ns と OT を比較した結果、6 月、3 月双方において OT の点数が有意に高かった ($p < 0.05$)。テスト結果を鑑みて、テスト実施後に FIM 評価早見表を作成し、実臨床の場面での活用を開始して評価精度を担保した。

[考察] FIM 評価の正確性向上に向けた取り組みは有効であったが、Ns の評価精度は十分とは言い難い結果であった。Ns の教育課程で FIM に関して十分に扱っていないため、短時間の動画配信での研修などでは効果に限界があったのかもしれない。しかし、FIM 評価の標準化は必要であり、時間をかけてでも取り組むべきである。診療報酬の基準に FIM を用いることを鑑みると、看護必要度のように FIM 評価に関しても研修の体制化が必要と思われる。